

あいづはん いしや かがやまつばさ こうへん
 「会津藩の医者 加賀山翼（後編）」

ぶん・え ^{みつ}三井 もとこ

ぜんかい
 <前回までのあらすじ>

おれは、加賀山仁。会津若松の高校2年生だ。3月に善龍寺のお尚から、おれの先祖が松平容保の御側医、加賀山翼だつてことを教えてもらった。「翼が、次々とあたらしいことができたのはなぜなのか？」というおれの疑問に、お尚は、初代会津保科家藩主、保科正之の名前を挙げた。

お尚は、今度来た時に保科正之のことを話してやろうといったけど、お尚の話は、長くて面倒くさいから、おれ、自分で図書館に行って調べたんだ。保科正之のこと。

保科正之は、2代将軍秀忠の隠し子だった。今の長野県伊那にあった高遠藩保科正光の養子になり、のちに3万石の高遠藩主になった。3代将軍家光の兄弟というわけだけど、家光も将軍になるまで、そのことは知らなかったらしい。みんなが知るようになってからも、正之は全然威張らなかったので、家光は、正之をすごく信頼して、寛永20年(1864)には、23万石の会津藩主を命じたそうだ。

会津の前藩主は、税として納める米の取り立てが厳しく、刑罰も残酷だったため、藩を逃げ出した農民も多かったという。正之が藩主になってからは、ちゃんと米の取れる農地か、収穫率の悪い農地かを調べさせて、納める税の量を決めたそうだ。それに明暦元年(1655)には、米を大量に買い取り、飢饉のときは米を低利で農民に貸しだすための倉を各地区に用意したんだつて。社倉制度と言って、日本で初めての銀行だし、福祉制度だよ。こんなやさしい藩主だったから、農民は豊作の時にはよく税を納め、かえって税収は伸びたそうだ。



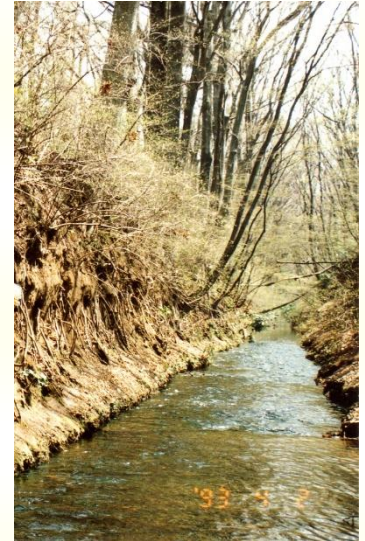
三代将軍家光は、後継ぎの4代将軍家綱の補佐役を正之に託して亡くなった。すると、正之はその後の23年間、会津に帰ることなく、江戸城で務めを果たしたという。会津藩が、松平容保の頃まで、「幕府第一」とっていたのは、正之からの教えだったそうだ。

江戸にいる間、会津はほったらかしだったかっていうと、そうじゃなく、老中とぼつちりタッグを組んで藩を守ったらしい。親孝行の者には賞をあげたり、90歳以上の人にはお米をあげたりしたそうだ。それに、農民にはやさしく武士には厳しい裁判をしたらしいよ。なぜなら武士は農民の生活を守る役目があるから、規律が乱れてはいけなからだつて。

それにすごいのは、旅の途中で病気になった人には、医療費ただ、宿賃ただで治療して、故郷まで送ってあげなさいという日本で初めての救急医療制度まで作っていたことだ。

江戸では、このころ明暦の大火(1657)が起きた。3日間に及ぶ大火事で、大名屋敷160軒、旗本屋敷770軒、町屋約400町が焼けて、死者は数万人だったというから、はんぱじゃない。

正之は何をしたかという、「誰が悪いのと言っている場合ではない。今後の為に防災計画を立てるべきだ」「米蔵が焼けたので、米が足りなくなると、米の値段が高くなってしまいうから、諸大名は国元へ帰るように」「家を焼け出され食べ物がないものには、お粥を配るように」と一カ月もの間、粥を配らせたという。そして、旗本の家を直す費用だけでなく、町屋の再建費用も出すことにしたって言うんだ。そんなことをしたら、貯金がなくなってしまうという反対があった時、正之は何て言ったと思う？「貯蓄とはこのような災害時に士民を安心させるために使うべきもの。そうでなくては貯蓄する意味がない」って言ったんだって。カッコいいなあ。



その後、正之は「大江戸復興プラン」を発令したそうだ。「東京百年史」によると、まずは「江戸総図」と言う洋式測量の図を作らせて、武家屋敷を城内から移転させ、沼を埋め、ひよけあきち火除空地としての広小路を作り、主要道路の道幅を倍近く広げ、防火堤を作り、橋を架けたって言う。焼けた天守閣を再建しようという意見には、「もう戦国時代じゃないから天守閣はいらない。江戸の民が水に困っているから、玉川から上水を引いてこよう」と発案し、測量を命じたそうだ。

寺の境内でおれが借りてきた本を夢中で読んでいると、突然、後ろからお尚の声がした。「なかなか、感心じゃのう。自分で調べたか？ 保科正之のことを。」

「ああ～、びっくりした。お尚、いつからいたんだよ？ これ読んで、知らなかったこと、いっぱいあった。おれ、会津が好きになった。おれたちの先祖ってすごいなあ。新しいことを次々と考えて、今の東京の基礎を作ったようなものじゃないか？」

「いやあ、それだけじゃない。今の政治が忘れていることも、たくさんあったろう。」とお尚。

「うん、ほんとだ！。おれ、もつともつと知りたくなかったよ・・・」

そんなおれに、お尚は、ただただうなづいて、そこにじっと立っていた。（おわり）

※参考文献「会津武士道」「保科正之言行録」中村彰彦著、「松平容保の生涯」

小桧山六郎著、「会津藩医加賀山翼先生並著書」友田康雄著